

## 子どもの発達と療育

療育を行うことで、食事や排泄などの『生活面』、身体能力を高める『運動』、社会的に充実した生活のための『ソーシャルスキル』、読み書き・算数を始めとする『勉強』など、各面について総合的に発達を促していきます。発達に凸凹があると自然に身につけることが難しく、できるようになるまで時間がかかる、間違っただけで身につけてしまうという様子が見られます。正しく身につけるには大人が関わり方を工夫し、子どもの特性に合わせて働きかけることが大切です。その中で、さくらんぼでどのような療育を行っているのか？どのような目的があるのか？活動の一部を通してご紹介します。

### 粗大運動

粗大運動は、赤ちゃんの時から始まり、寝返りやハイハイなどを経て歩行がはじまり、走ったり、姿勢の維持、バランスをとったりと日常生活に欠かせない運動です。粗大運動をしっかりと育てることで、微細運動がスムーズに行えるようになります。

#### リトミック

ウォーミングアップの活動で、リズムに合わせて歩いたり、走ったり、音が止まったら、体を止めることや、動物のまねっこをしてみたり、発達状況に合わせて行っています。集団の中で音楽に合わせて楽しく一斉に動く練習も行います。



#### 乗用玩具

足でこぐことは、座った姿勢を安定させるバランス感覚など姿勢保持に役立つ機能が高められます。また、歩く時とは違う筋肉をつかうため、筋力アップも図れます。自分の好きなものを選ぶという自己選択や自己決定も促せます。



#### リズム遊び

パネルシアターや手遊び、様々な楽器や音楽に触れる活動です。注目して模倣したり、一緒に口ずさんでみたりと、楽しく身体を動かしたり、道具を使って指先を動かしたり、様々な感覚に働きかけます。また、その季節の行事なども取り入れて四季を楽しんでもらっています。



**公園活動** 遊具では、よじ登ったり、滑ったり、ぶらさがったり、日常ではあまりできない動作をすることができます。砂場では、道具を使って力加減なども練習できます。また、適度な日光浴はビタミンDが作られ、丈夫な身体作りに不可欠です。



さくらんぼでは、粗大運動の活動後に机上の活動を入れていきます。始めに体を動かすことで活動への集中力が増し、着座の持続にもつながります。

## サーキット



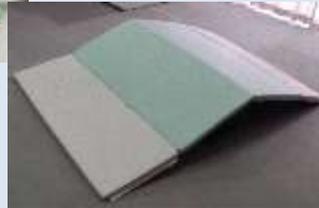
### 一本橋

不安定なクッションを歩くことで足裏への感覚刺激やバランス感覚を培います。

### トンネル

四つ這いになったり、ほふく前進をしたり全身運動ができます

トランポリン・ロディ・バランスボール  
体幹が鍛えられ、姿勢の維持につながります。また、興味を引くものなので、お子さんから要求を伝える事や順番を守る練習も行っています。



## クッション遊び

大きなクッションを積み上げたり、上に乗ったり、倒したりと、全身をたくさん動かせる活動です。見立て遊びにも展開することもあり、想像力も養えます。



## 山登り

マットとクッションで作られているので、適度な柔らかさがあります。ジャンプしたり、寝転がってすべったりと楽しみながら様々な身体の動きが経験できます。

## 目と手（体）の協応

例えば、風船を目で追って、それを手で受け止めるのは、目と手の協応がうまくいかないとできない動作です。目から入ってきた情報は、手や体を動かすことと連動しています。

風船などの活動は、楽しみながら、目と手（体）の協応を練習できる活動です。目と手の協応は、ほとんどの活動に必要な機能になります。また、粗大運動と微細運動どちらの要素も入っています。効果的な活動：三輪車・お手玉・ボールプール・折り紙・絵の具など

### 風船遊び



なぞり書き



ボールプール



絵の具



製作活動



ちぎり貼り

## 微細運動

微細運動は、手や指を使った細かい動作のことです。粗大運動で体幹が育ってくると、身体の機能は徐々に肩→腕→手・指先と徐々に発達していきます。手先が発達してくると食具を使ったり、えんぴつを持って書いたり、日常で使う細かな作業でいかされます。

①体感の支持性 体幹が整う



②肩・腕の支持性 手を動かす時に肩がぐらつかなくなる。



③腕・手の可動性 肩がぐらつかないので、腕や手が動かしやすくなる。



④手先の支持性 手のひらの支持性が発達してものをしっかりつかめるようになる



⑤手先の可動性 体幹・肩・腕・手の支持性の発達をもとに手先の可動性が発達する。

手先の器用さがアップする。 ※ここでは手のことだけにふれましたが、足やその他の部位の機能も発達します。



## プットイン・アウト

ものを入れる・引っ張り出すなど、指先をつかった課題です。つまむ動作や目と手の協調のトレーニングにもなります。



ピンのふたのプットイン

**型はめ** 型はめは、△や○などさまざまな形を認知する力が求められます。型に実際にはめることで図形認識能力が向上すると言われています。また、形に合うように調整するので、手先の運動にもなります。



おはじきのプットイン



型はめ



## シュレッダー

肩から大きく動かす動作と左右別々の動きで動作を連動させる活動です。右手で回して、左手で支える動作は姿勢の中心線が整う必要があります。未発達の際は、姿勢が崩れやすかったり、利き手ではない手は垂れ下がりが使えていません。

**マッチング** 『同じ』という概念を覚えて、探す練習の教材です。実物と写真、写真と絵のように同じものでも理解できないことがあります。スモールステップから始めて、言葉と物を一致させる力へつなげていきます。



マッチング

## 絵合わせ・パズル

一部の絵を見て、全体の絵をイメージすることや記憶力、観察力など様々な機能を使います。はじめは、2枚組の絵合わせからはじめ、徐々に発達状況に合わせたパズルへと進んでいきます。達成感もあるので自己肯定感も高まります。



パズルブロック



2枚絵合わせ

## ブロック・井型ブロック

想像力で好きな形に作ってみたり、何をつくっていいのかわからない子には見本を提示して作ってもらっています。ブロックをはめる、はずす動作の獲得や色の認識などにも役立ちます。



## 感覚統合療法

感覚が統合されていると外からの感覚刺激を脳で上手くキャッチして日常に上手く適用していくことができます。反対に統合が未発達の状態ですと上手く処理できず、不適応な行動をしてしまうことにもなります。感覚統合に重要なのは「触覚」「固有覚」「前庭覚」の3つの感覚です。「前庭覚」はバランス感覚で姿勢の保持のために使われ、粗大運動で統合されます。「触覚」は、皮膚に触れた・触れられたときに感じる感覚、「固有覚」は、筋肉や関節に感じる感覚で力の入れ方や体の位置を確認するために使われています。感覚統合療法は、粗大運動、微細運動共に、様々な活動で取り入れられています。



絵の具



プール



あずき



新聞紙+パラバルーン



巨大シートおえかき



片栗粉あそび



小麦粉ねんど